

SHIRAKOBATO

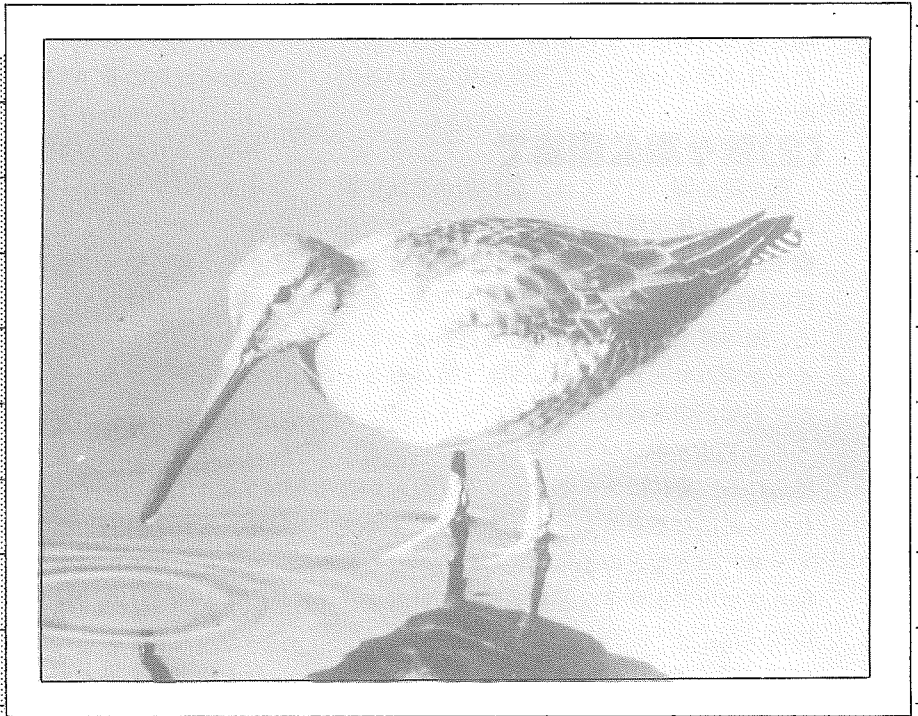
しらこぼと



1988. 4

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 47

日本野鳥の会 埼玉県支部

秋ヶ瀬 (浦和市)



今年度の特集は、だれもが気軽に行けて楽しめる代表的な探鳥会地の紹介です。執筆は、そこをフィールドとし、年間を通して観察している方々にお願いしました。どうぞ、お楽しみに…。

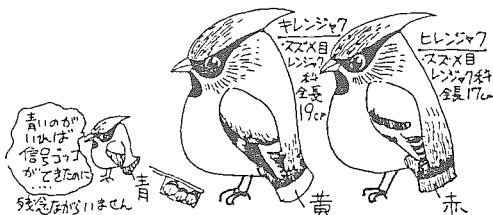
(1)秋ヶ瀬というところ

秋ヶ瀬というと、鳥仲間では治水橋から秋ヶ瀬橋までの河川敷を思いうかべることが多い。これは、埼玉大学野鳥研究会の活動により、この地域が鳥の重要な場所になっていることがわかってき、そして、彼らがフィールドを総称して秋ヶ瀬とよんだことによると思われる。

しかし、ここで紹介するのは羽根倉橋から秋ヶ瀬橋までの荒川河川敷に広がる秋ヶ瀬公園である。この公園は荒川左岸に広がり、ハンノキ林やサクラソウ自生地などがある他にグラウンドも整備され、多くの市民の憩いの場となっている。また県南では数少なくなったバラエティーにとんだ自然の残っている場所でもある。

(2)秋ヶ瀬公園まで

秋ヶ瀬公園へ行くには、浦和駅から北浦和駅から大久保浄水場行きのバスに乗り、諏訪前橋で降りると便利である。バスから降りたら目の前の鴨川に沿って100mほど下流へ歩くと、鴨川排水機場に出る。ここはハクセキレイ・セグロセキレイ・イソシギ・カルガモ・コサギなどの水辺の鳥や、スズメ・ムクドリ・ヒヨドリ・キジバトなどの身近な鳥が通年見られる。夏にはコチドリ・ツバメなどが加わり、冬になるとコガモ・オナガガモ・ツグミ・タヒバリなどの冬鳥が見られる。ここ数年カワウ・アオサギなども冬に見られるようになった。



(3)堤防に上ろう

ゆっくり鳥を見た後は堤防に上ろう。広大な河川敷が一望に見渡せる。しかしここ数年で河川敷内の水田がグラウンドに変わり、環境的に変化したことは残念である。

この堤防から羽根倉橋側の森がピクニックの森とよばれ、県内でも数少ないハンノキ林の広がる所である。堤防の上で風景を楽しんだ後は、この森をめざして歩いて行こう。途中はグラウンドになってしまい鳥の種類は少ないが、モズ・キジバト・ヒバリなどが見られ、冬はチョウゲンボウに出会うかもしれない。

(4)森に入ろう

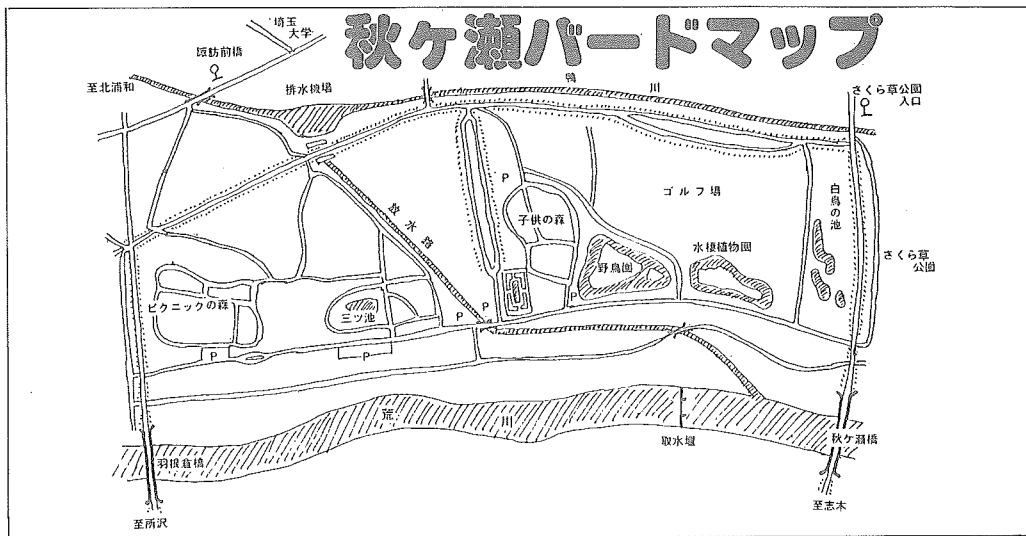
森に入ったらまず耳をすましてみよう。いろいろな鳥の声や移動する音が聞えるだろう。シジュウカラ・オナガ・ヒヨドリ・モズカワラヒワなどが年間を通して見られ、冬はホオジロ・アオジ・カシラダカ・ジョウビタキ・シメ・ツグミなどの小鳥類が加わる。しかし、何ととっても春と秋の渡りの時期が一番いい。春はサンコウチョウ・センダイムシクイ・エゾムシクイ・オオルリ・キビタキ・ヒレンジャクなどが、秋はエゾビタキ・コサメビタキ・マミチャジナイなどの鳥が通過する。珍しいものでは、コウライウグイス・コルリ・キバシリ・ムギマキなどの記録もある。これらの鳥と出会うには早朝がよい。それも平日であればなおさらよいが。

(5)荒川へ出よう

小鳥たちを楽しんだ後は荒川へ行こう。夏はカルガモ・カイツブリぐらいしか見られないが、冬にはマガモ・オナガガモ・コガモ・ヒドリガモ・ホシハジロ・キンクロハジロなどのカモ類やユリカモメなどが見られる。(今は河川工事をしていて立入禁止となっている)

(6)子供の森

次に目ざすのは子供の森だ。子供の森はハ



ソノキ・クヌギを主とする林だが 下草が刈り取られ、道も舗装され、入口には噴水のある池があるなど、ピクニックの森と比較するとずい分人手の加わった森である。しかし小鳥類は十分楽しめる。時にはピクニックの森より鳥が多いこともある。この鳥相もピクニックの森と同じようだ。したがって秋から春にかけての渡りから冬にかけてがよい様である。けれど人手が加わっている分だけ種類は少ない様な感じである。(正確なデータがないので断定はできないが)

(7)野鳥園・水棲植物園

この子供の森から野鳥園・水棲植物園へと行こう。野鳥園・水棲植物園ともまわりを堀でめぐらし、中に入って行けない様になっている。堀は雨が少ないと水が少なくなってしまうが、アシ原が広がっている。この堀伝いに鳥を見るわけだが、ここを観察するのは冬がよいだろう。ホオジロ・アオジ・オナガ・キジバト・ヒヨドリ・ウグイス・ジョウビタキなどの鳥が見られ、のんびり歩くと水浴びをしている小鳥に出会ったりする。野鳥園に比べ水棲植物園は冬でも水の残っていることが多く、クイナ・ハクセキレイなどが歩いているところに出会うこともある。

さらに時間に余裕があれば、白鳥の池やさくら草公園へ足をのばしてみるのもよい。秋ヶ瀬橋付近ではシラコバトが見られることが多い。また、さくら草公園でサクラソウを楽

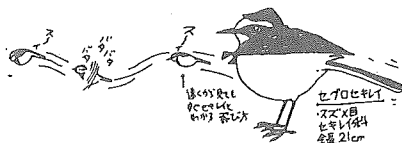
しむのもよい。ピンクのサクラソウが黄色のノウルシの間に咲いているのは何ともいえずかわいいものである。

(8)帰りは

帰りは、秋ヶ瀬橋の入口にあるさくら草公園入口のバス停から浦和駅に出るのがよいだろう。時間を気にしなければ、もう一度来た道をもどり、諏訪前橋からバスに乗ってもよい。来た道をもどっていると気がけない鳥に出会い、楽しい気分がより大きくなることもある。

全部まわるのには時間がかかるので、何回かに分けて自分の好きな時に好きな場所に行くのもよい。そのためには車で公園に行くのが一番よいが、休日は早朝から人が出ていることを頭に入れておく必要がある。昼ごろに行くと渋滞になり、歩いた方がはやい時がある。

最後になりましたが、県内の環境は年々悪くなっています。○○公園や○○の森などをつくるのも必要ですが、どうすれば自然とその中で生活する人間が豊かに過ごすことができるかを、しっかり考えていく必要があるのではないのでしょうか。鳥の観察がそのための一つとして役立つとよいですね。(石井 智)



(P. 2, 3のカット・比企 裕)

1988年ガン・カモ・ハクチョウ類調査報告

日本野鳥の会 埼玉県支部研究部

調査地 種名	荒川 (川口 秋ヶ瀬)	森林公園 (滑川)	荒川 (大麻生)	狭山湖 (所沢)	菖蒲公園 (久喜)	百穴湖 (吉見)	利根川 (阪東大橋)	古利根川 (越谷)
コハクチョウ			30					
オシドリ		16						
マガモ	74	1,962	24	613	957	363	452	
カルガモ	175	1,254		459	2,917	152	1,088	51
コガモ	102	3	400	263	1,724	128	645	183
トモエガモ		1			16	1		
ヨシガモ		2			1		2	8
オカヨシガモ							6	
ヒドリガモ	39	2		66	100	4	275	316
アメリカヒドリ					1			1
オナガガモ	433	123	2	138	1,215	46	934	158
ハシビロガモ	8			10	19	100	64	1
ホシハジロ	257	2		100		162		
キンクロハジロ	135	2		33	105	7		
ホオジロガモ				2			1	
ミコアイサ			1	4				
カワアイサ				4			16	
計	1,223	3,367	457	1,692	7,055	963	3,483	718

1月15日、全国一斉ガン・カモ・ハクチョウ類調査が実施され、県内では40余名の方に参加いただき表の結果が得られました。

2年続けて200羽近いトモエガモがカウントされた久喜菖蒲公園では16羽しかおらず森林公園、吉見百穴で総数の大幅な減少がありました。他は例年通りの結果となりました。

カウントが実施された1月は、移動性高気圧が天気を決め異例の暖冬となりました。越冬地におけるテリトリを確保する一部の小鳥とは異なり、ガン・カモ科はオオハクチョウ

2C92の標識調査結果(小荷田1987)に示す様に、気温、天気、餌場、ねぐらの環境等により越冬地を随時移る性質があります。本年の調査結果は1月の暖冬による影響の表われと思われま。

調査に参加いただいた皆様、ありがとうございました。
(藤原寛治、小荷田行男)

< 文 献 >

小荷田行男 1987 オオハクチョウ しらこばと No. 43 1987. 12



ヤマガラ風のシジュウカラ

日笠 達夫(東村山市)

我が家の庭先にある餌台(えさだい)に、見慣れた野鳥が来た。2月6日土曜日のことである。頭部と喉が黒、頬と腹部が茶褐色。ヤマガラに似ているがどことなく違う。オー

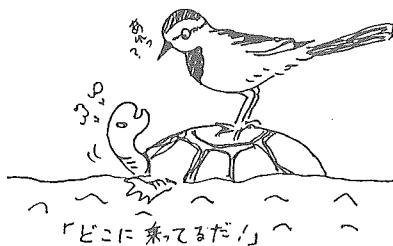
ストンヤマガラ? そんな野鳥が庭先に来るはずがない。肉眼でのガラス越し観察では、はっきりした種類が確認出来ない。素早く双眼鏡を取り出して、見る。

どう見てもヤマガラに見える。ヤマガラなら埼玉県支部この冬の注目種なので「話の種になるぞ」などと心をときめかすもつかの間、くるりとうしろ姿を見せる。「なんだ、なんだ!」シジュウカラではないか。そう確認出来たと思ったとたん、飛び去っていった。

しばらくしてまた、チッチッチッ、チッチッチッという鳴き声をしたので餌台を見ると、ヤマガラ風シジュウカラがひまわりの種をくわえて近くの小枝に止まった。そして、ひまわりの種をコツコツコツ、コツコツコツと啄んでいる。双眼鏡で覗いてみると、茶褐色の色はどうやら「血の色だ」と分かった。

次の日また、ヤマガラ風シジュウカラが餌台にきた。今度は、記録にしようと思って、カメラで撮った。そして「写っててよ」と願いながら急いで写真屋へ持ち込んだ。

後日、出来上がった写真を見てヤマガラでなく、ましてやオーストンヤマガラでもなく、



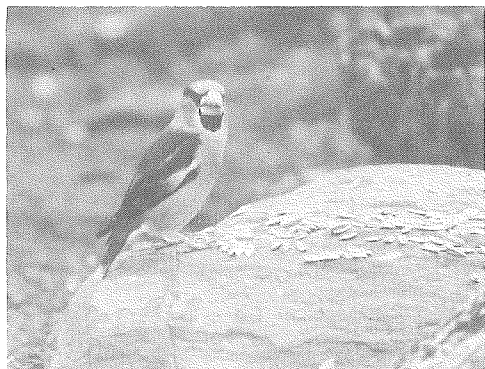
「どこに乗ってるだ、」

(カット・押川 歳子)

血にまみれたシジュウカラであることをはっきりと確認した。それはそれは、とても痛ましい姿であった。その後、休日ごとに餌台に注意しているものの、ヤマガラ風シジュウカラは再来しない。

我が家のミニサンクチュアリ

4、5年前から野鳥や自然に興味を持ちはじめ、庭に餌台を置いたところ、野鳥が来る様になりました。以前から実のなるピラカンサ、万両、南天、ネズミモチ、カヤ、モッコク、センダン、ムラサキシキブ等があり、四季を通じて花が絶えない庭なので、季節によってパンくず、残り飯、ヒマワリの種、牛脂、ジュース、みかん、リンゴ、バナナ等果物を並べておくと、夏の間はキジバト、スズメ、オナガが多く、秋冷の候となりますとシジュウカラ、カワラヒワ、ヒヨドリ、ムクドリが常連となり、冬も深まり雪でも降る頃にはメジロ、アオジ、シメ、ツグミ、ジョウビタキ、ウグイス、モズ、セキレイの姿が目を楽しませてくれます。珍客では、ヒレンジャクの群がテレビのアンテナで羽を休めたり、尾を振り振りキセキレイが現われます。毎年春になる



(バリバリ、音も聞こえます)

柿沼 洋子 (羽生市)



(ウグイス、メジロの夫婦と交替で食べます)

とツバメが軒先に前年の巣を増築して6、7羽のヒナをかえます。水のみ場では水あびのショーが見られ、ヒマラヤ杉にはキジバトが巣作りをしてヘビやネコから逃れて子育てをし無事巣立つまで毎日小さなドラマを見ている様です。

美しい愛らしい鳥を見ていると写真に収めたくなるのが人情です。カーテンの陰にカメラを据え、チャンスがあれば生態を撮影します。庭の中だけではあきたらず、郊外へロケーションに出かけ小川や沼にタシギ、コサギ、アマサギ、ゴイサギ、コチドリ、クサシギ、ハクセキレイ、ヒバリ、ムナグロ、カモ類と出会い、休耕田や利根川にタゲリの群を発見したときは思わずその美しさにカメラ持つ手がふるえました。この先野鳥とのつき合いは増々深く楽しくなりそうです。

- ミコアイサ ◇2月9日午後3時45分、大宮市馬宮の治水橋付近で♂1羽(野川一臣)。
 オオタカ ◇2月10日、上福岡市駒林で1羽(石井清澄)。
 ノスリ ◇2月24日、上福岡市川崎で1羽(石井清澄)。
 チョウゲンボウ ◇2月24日、上福岡市福岡新田の運動公園の木に♀1羽(石井清澄)。
 シロハラクイナ ◇12月27日、蓮田市の黒浜沼で1羽(若松淳平)。
 コミズク ◇2月5日、熊谷市の荒川大橋上流の中洲で1羽(渡辺 敦)。
 カラアカハラ ◇1月15日、大宮市湯木町で1羽(松木勝彦)。
 ルリビタキ ◇2月6日、滑川町の森林公園で♂2羽(渡辺 敦)。

【4月の見どころ】

4月、本格的な春の訪れです。浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森のヒレンジャクは、今年こそは期待したいものです。また、ここでは毎年ヤマシギも見られてますが、暖冬だった今年はどうでしょうか。あの眼の位置からいって、脳みそはあまり入ってないんじゃないかなどとうらやましい悪口を言う人もいますが、一度じっくりその姿を見たいものですね。

町の家々にもツバメが帰って来て、すぐに巣作りが始まります。ツバメというと、今で



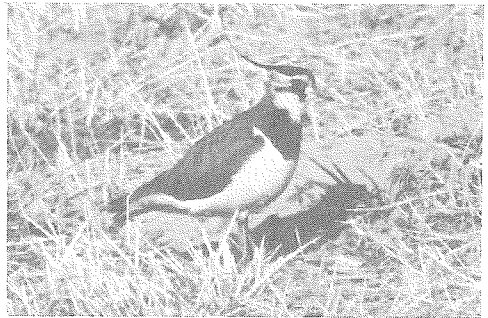
(カット・押川 歳子)

ウグイス(初鳴き) ◇2月25日、浦和市本太でさえずる(藤野富代)。

ホオアカ ◇2月1日、越谷市増林で1羽(山部直喜)。

ミヤマホオジロ ◇2月6日、滑川町の森林公園で♀1羽(渡辺 敦)。

スズメ(部分白化) ◇1月18日、浦和市の白幡沼付近で頭の白いスズメが1羽(海老原義夫)。



タゲリ(撮影・柿沼 洋子)

も思い出すことがあります。数年前、車庫の中に作った巣で、ツバメの親が、ヒナをつつき落して殺してしまったという電話が、ありました。

調べてみると、どうも巣から落としたのは本当の親ではなくて、その巣を狙っていた別のツバメだということがわかりました。結局、最初にいたツバメは巣をすてて、そのツバメが占領して、ヒナをかえし、巣立たせました。車庫の中という条件の良さもあったのですが、優雅に飛び交うツバメの世界にも残酷な一面があることを知りました。

昨年、初めてツグミのさえずりっぽい鳴き声を聞きました。のんびりとした、いい声でした。この時期は、ふだんは聞くことのできない野鳥のさえずりを聞けるチャンスです。姿と共に、声にも注意を向けましょう。

田圃や川原には、シギやチドリの仲間もやってきます。今冬は、浦和と大宮にオオハシシギという珍客がやってきましたが、ただ普通はなかなか見分けがつかません。探鳥会で少しずつ覚えていって下さい。そのうちに区別がつくようになりますから。かくいう私も、シギチは、いつまでたっても初心者ですが、皆さんの周囲の初認情報お待ちしています。

謎のヒタキの正体判明

なんとクロジョウビタキ

今年も飛来して越冬

『しらこぼと』昨年5月号と8月号でご紹介した謎のヒタキについて、本部野鳥記録委員会が研究を続け、クロジョウビタキであったということが判明した。ほぼその判断がかかっていた本年1月21日、浦和市中尾のTさんから、1月17日以降また同じ鳥が同じツバメの巣を寝ぐらにしているとの連絡が入り、25日に確認したうえで本部野鳥記録委員会のメンバーとともに2月1日夜調査して、やはりクロジョウビタキの雌であるという判断が出されたもの。

この原稿を書いている3月1日現在クロジョウビタキの滞在は続いているが、昨年の例では3月30日終認となっているので、4月号がお手もとに届くころにはおそらく旅立っているか旅立ちまもないと思われる。

クロジョウビタキ過去の記録

日本国内におけるクロジョウビタキは、本部研究センターによれば、1984年4月15日、石川県輪島市の舳倉島で雌1羽が観察されたのが初記録、翌1985年4月29日、山口県萩市の見島で雄1羽が写真撮影されたのが2回目、今回が3回目の記録であるが、長期間滞在が観察されたのは初めて、2年続けての越冬例も初めて、ツバメの巣を寝ぐらにしているところが観察されたのも初めてと、初めてだらけの記録となった。

クロジョウビタキとは

学名 *Phoenicurus ochruros*。ソ連やヨーロッパの図鑑などによると、雌は褐色を帯びた灰色で、尾は赤褐色、翼にジョウビタキのような白斑はない。ヨーロッパから中国中央部付近まで広く分布しており、その地域では普通種。山地の断崖、岩の斜面、耕作地の石造

りの建物、市街地のコンクリートの建物周辺などで観察され、断崖の裂け目、岩の間、ひさしの下などに巣を作る。冬は南ヨーロッパ、北アフリカ、アラビア半島、イラン、インド、ビルマなどに渡るとされている。

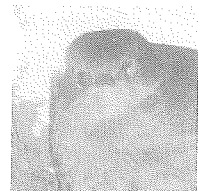
図鑑によると、分布を東に広げつつあるという記載もあり、その先駆的な個体が、日本のここに、今年も来たものと考えられる。

おわひ

観察される場所が個人の住宅の玄関軒下であるため、多くの人に知られると全国からたくさんの方が押し寄せてたいへんになると思われたため、早い時期に公表はできませんでした。お許しください。

お礼

2回にわたってクロジョウビタキに宿を提供、私たちの調査にもころよく協力して下さったTさんご一家には、心からお礼申し上げます。(写真と文・海老原美夫)



△片目が眠い
(1月26日)

△昭和63年1月26日撮影



△全部眠い(2月10日)

△両目が眠い
(1月26日)

表紙の写真

オオハシシギ (シギ科)

1988年の鳥見は、このオオハシシギから始まりました。大宮の関沼で越冬しているという話をきいて、元旦に1種類増やそうと、はやる気持ちをおさえて待ちました。自宅から車

でわずか5分足らずのところまで越冬するなんて信じられません。下水道が完備してきた成果だとすれば、もっときれいな鴨川になってほしいものです。(写真と文・金井祐二)



浦和市・秋ヶ瀬探鳥会

期日：4月3日（日）

集合：午前9時 浦和駅西口バスロータリー
（その後現地までバスを利用）

解散：午後1時ごろ

担当：福井、海老原、森本、草間、金井

見どころ：去り行く冬の小鳥達。黄色い胸の輝くアオジ。黒覆面のカシラダカ。彼等の歌が聞けるのはこの季節だけ。外れ年でなければレンジャクの御滞在も。

北川辺町・渡良瀬遊水池探鳥会

期日：4月10日（日）

集合：午前9時10分 東武日光線柳生駅前
交通：東北本線大宮8：14発→栗橋8：42着、
東武日光線乗換え8：55発→柳生9：05着

解散：午後1時ごろ

担当：石川、山部、木村

見どころ：はてしない大空に春の飛翔。広大な遊水池の上空に輪を描くのは、別れの近づくチュウヒやノスリ、帰ってきたばかりのサンバ。そして旅を急ぐツバメ類やアマツバメ類の高速飛翔。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：4月17日（日）

集合：午前8時15分 北浦和駅東口 または
午前9時 浦和市立郷土博物館前
（北浦和駅の場合、その後バス利用）

冬鳥達がおしゃれをして旅立ちに備えています。赤い羽のシギやチドリ達が慌ただしく立ち寄っていきます。そしてあでやかな夏鳥達の到着。輝きだす春を求めて探鳥会へ。

持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、（もしあれば）双眼鏡などです。

参加費は、一般＝100円、会員及び中学生以下＝50円。予約申し込みは必要ありません。小雨決行です。

夢中になり過ぎて、鳥を驚かしたり、植物を荒らしたりなどしないように。いつもフィールドマナーをお忘れなく。



解散：午後1時ごろ

共催：浦和市立郷土博物館（参加費無料）

担当：楠見、福井、渡辺（周）、乗田、手塚
見どころ：三室の里も人事異動の季節。旅支度の整った黒覆面のユリカモメ。ツグミやシメ、カモさん達ともこれでお別れです。既にツバメが我がもの顔で飛び交い、林に夏鳥の姿も見える頃。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：4月30日（土） 午後1時～3時ごろ

会場：浦和市立コミュニティーセンター2階
第2講座室（浦和駅西口から県庁通り西進、中山道を左折し約600m右側）

案内：袋づめをしながらおしゃべりをしていれば、どこにも行けずとも楽しい連休。

野鳥写真クラブ定例会

とき：4月30日（土） 午後3時ごろ～5時

会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

案内：行楽地の雑踏に背を向け、暗い室内でスライドを見せ合うのも一興ではございませんか。

神奈川県・多摩川河口探鳥会

期日：5月1日(日)

集合：午前9時30分 京浜急行大師線小島新田駅前

交通：京浜急行線特急品川8：55発→京急川崎9：08着、大師線に乗り換え、9：16発→小島新田9：26着

解散：午後2時ごろ

担当：中島康夫、楠見邦博、横山みどり

見どころ：干潟はすっかり夏の装い。シギ・チドリ春の渡りの最盛期。水辺に映える夏の装いは、オオソリハシシギやメダイチドリの赤銅色、キョウジョシギの三毛猫模様、ダイゼンのモノトーン。

寄居町・鐘撞堂山探鳥会

期日：5月3日(祝)

集合：午前9時 寄居駅北口

交通：東武東上線川越8：00発→森林公園乗り継ぎ→寄居8：59着／秩父鉄道熊谷8：30発→寄居8：58着

解散：午後2時ごろ

担当：田村、新井、北川、小淵、林、萩原

見どころ：旅路の華麗な夏鳥。新緑まばゆい山にわき起こるキビタキ、オオルリ、ムシクイ類の歓喜あふれるコーラスをどうぞ。

5月8日(日) 熊谷市・大麻生探鳥会

9：30秩父鉄道大麻生駅前集合

浦和市・秋ヶ瀬探鳥会

9：00浦和駅西口バス停集合

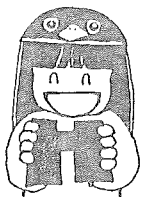
坂戸市・高麗川探鳥会

9：00東武越生線川角駅前集合

蓮田市・黒沼探鳥会

8：45東北本線蓮田駅東口集合

5月14日(土) 栃木県・篤川と千本松探鳥会



探鳥会へ
どうぞ!!

5月15日(日) 浦和市・三室地区探鳥会

本庄市・阪東大橋探鳥会

5月21日(土夜～22日(日)) 軽井沢探鳥会

両神村・両神山探鳥会

期日：5月22日(日)～23日(月)

集合：22日午前9時30分秩父鉄道三峰口駅前

交通：秩父鉄道熊谷7：46発→三峰口9：19着／西武鉄道所沢7：39発→西武秩父8：47着、秩父鉄道乗換え、御花畑8：57発→三峰口9：19着

解散：23日午後3時ごろ三峰口駅の予定

費用：通常探鳥会と同じ参加費の他に、宿泊費(一泊二食)、23日の昼食、バス代合わせて約5,000円が必要です。

申し込み：申し込みが必要です。支部事務局(p.12 奥付参照)に葉書または電話で。5月15日締切。

担当：海老原、藤原

見どころ：深山の夜に響く声の仏法僧。盃を交わしつつ清滝小屋で聞く、神秘的なコノハズク。それだけで一日仕事をサボった甲斐があります。夜明けにわき上がるコマドリ、オオルリ、アオバト等の大コーラスも最高のお土産。但し、正直言って健脚向き。それに山の上は冷えるので服装にご注意を。

栃木県・奥日光探鳥会

期日：6月11日(土)～12日(日)

費用：宿泊費、往復交通費共で約14,000円

定員：30名(先着順)

申し込み：申し込みが必要です。中島康夫

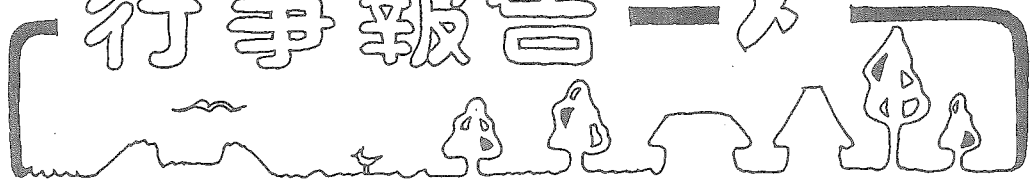
まで電話または葉書で。

担当：中島、楠見、松井、榎本

見どころ：可憐な花と鳥、初夏の高原。林の道には輝くばかりのキビタキの姿が目の前を飛び交い、甘美な歌も心ゆくまで。戦場ヶ原にはノビタキの愛らしさがお似合い。オオジシギのダイナミックなディスプレイやコマドリのオレンジ色が楽しめれば最高。盛りの垂高山の花も鳥に劣らぬ魅力です。

(カット=鈴木加代子、鈴木 高士)

行事報告



1月24日(日) 久喜市 昭和池

人 32人 天気 晴 鳥 カイツブリ
 カワウ マガモ カルガモ コガモ トモエ
 ガモ ヒドリガモ アメリカヒドリ オナガ
 ガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロ
 ハジロ ユリカモメ ハクセキレイ ヒヨド
 リ モズ ツグミ シジュウカラ ホオジロ
 オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクド
 リ (23種) トモエガモは数が少なかったが、
 全員心ゆくまで観察でき、他支部からの参加
 者もにっこり。今年も浅田さんより「ケンチ
 ン汁」の差し入れがあり、おかわりしてたっ
 ぷり御馳走になった。いつも寒い場所だけに
 心に染みます。

1月30日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

がんばってくれた人 岩波勇一、海老原教子、
 海老原美夫、金子真理、楠見文子、小林恒雄、
 小林芳江、佐藤ミツ、諏訪隆久、藤野富代、
 前田真由美、吉田二三子、渡辺 敦 (13人)。
 埼玉県支部には若い女性が少ないなんてもう
 言わせない。新しいメンバーも増えて、活気
 がありますよ。

1月30日(土) 写真クラブ定例会

集まった人 15人 作品発表した人 3人



ルリビタキ雌 (撮影・渡辺 敦)

1月31日(日) 吉見町 吉見百穴周辺

人 24人 天気 晴 鳥 カイツブリ
 ゴイサギ マガモ カルガモ コガモ オナ
 ガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンク
 ロハジロ ノスリ タゲリ キジバト コゲ
 ラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ
 ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シ
 ジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ
 カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハ
 シボソガラス ハシブトガラス (30種) 少し
 風はあったけれど、陽射しボカボカの探鳥日
 和。カモ達、タゲリ達をたっぷり観察できた。
 上空にはノスリ君。向かい風を受けてゆったり
 舞い上がる。翼の斑紋も、順光でじっくり。

1月31日(日) 三芳町 多福寺

人 41人 天気 晴 鳥 ノスリ ハヤ
 ブサ キジ キジバト アオゲラ コゲラ
 ハクセキレイ ビンズイ タヒバリ ヒヨド
 リ モズ ツグミ ウグイス ヤマガラ シ
 ジュウカラ メジロ カシラダカ シメ ス
 ズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソ
 ガラス ハシブトガラス (24種) 地面で餌を
 探すビンズイの群れ、梢からはニーニーニー
 と微かなヤマガラスの声。上空にはハヤブサや
 ノスリ。ゆっくりと雑木林を味わった。

2月7日(日) 上尾市 丸山公園

人 16人 天気 晴 鳥 カイツブリ
 コサギ カルガモ ノスリ タゲリ タシギ
 キジバト カワセミ キセキレイ ハクセキ
 レイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジ
 ョウビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ
 ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ
 シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソ
 ガラス ハシブトガラス (27種) 前日の曇り
 空とうってかわって快晴。それにしても風が

強い。そんな心配をよそに、コバルトブルーとオレンジ色のカワセミが現われ、そのすばらしい色合いを心ゆくまで観察。荒川の土手に出て、強風に身をさらしながらノスリとタゲリ。遠くに富士山、秩父の山々と雄大な自然を皆で満喫。楽しい一日だった。

2月7日(日) 蓮田市 黒浜沼

人 52人 天気 晴 鳥 カイツブリ
コサギ カルガモ コガモ オナガガモ オオタカ バン イカルチドリ セグロカモメ キジバト コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) 運の良い人はオオタカを見られた。沼にはコガモが7百羽位。紅梅が満開だった。

2月7日(日) 滑川町 森林公園

人 24人 天気 晴 鳥 カイツブリ
オシドリ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ キジ キジバト コゲラ セグロセキレイ ヒヨドリ ルリビタキ ジョウビタキ トラツグミ シロハラ ツグミ ウグイス ヒガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 集合場所にいきなりルリビタキが現われリーダーをあわてさせる。トラツグミが地上を歩き回り、コゲラはドラミング。オシドリが仲良く飛行し、シロハラが姿を見せる。ヨシガモ、トモエガモが出て来た。気の早いシジュウカラがさえずる。一日でこんなに見られていいんだろうか。

2月11日(木、祝) 伊奈町 小室無線山

人 16人 天気 曇 鳥 コサギ コガモ タゲリ キジバト コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ツグミ ヒガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガ

ラス ハシブトガラス (23種) こんなことを書くと文句を言われそうだが、雑木林の中にはビンズイやカシラダカが、佃煮になりそうな位居た。カラスも佃煮になりそうだったが、こちらはどうも。地面に降りて木の実をかじるシメやタゲリもゆっくり見られた。

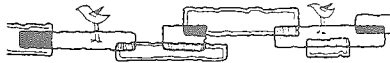
2月11日(木、祝) 所沢市 狭山湖

人 47人 天気 曇 鳥 カイツブリ
カンムリカイツブリ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ ホオジロガモ ミコアイサ トビ オオタカ ノスリ コジュケイ キジバト アオゲラ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 歩き始めてまもなくジョウビタキを見ていたら、頭の上を飛んで行ったのはケラ。とまったのを探すとオッ、アオゲラの雄だ。赤いベレー帽、お腹の縞模様、表から裏から、よく見せてくれた。ミコアイサの雄も近くで盛んに潜水を見せてくれて、何秒潜っているか計ってみたりして、風は少し冷たかったけど、心はホットだった。

2月21日(日) 本庄市 阪東大橋

人 34人 天気 晴 鳥 カイツブリ
ゴイサギ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ アメリカヒドリ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ ホオジロガモ カワアイサ トビ イカルチドリ ハマシギ キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス (36種) 当地名物の“赤城おろし”が吹荒れる中、カモ類13種(アメリカヒドリも)見た。今回は群馬県支部と合同。鳥仲間も増やした。解散後、期待のクロツラヘラサギ、カワアイサ、カワセミを楽しんだけど、おお寒っ!

連絡帳



本部の評議員会と支部代表者会議

さる2月20日(土)～21日(日)の2日間、都内渋谷区で開かれた本部の評議員会と支部代表者会議には、評議員・海老原美夫、支部代表者・楠見邦博、オブザーバー・小荷田行男の3名が出席しました。

席上、最近一部の新聞と月刊誌で報道された「日本野鳥の会を考える会員の会」と称する会からの公開質問状などに問題点としてあげられた諸点につき、本部からそれぞれ率直明快な説明がなされて了承され、野鳥を始めとする自然を保護していくため、確実な歩みを続けていく日本野鳥の会の姿があらためて確認されました。

批判は批判として謙虚に受け止め、改めるべきところは改め、会としても成長していかなければなりません。しかし批判が誤解に基づくものであるときはその誤解をといてもらわなければなりませんし、事実をねじ曲げての中傷には毅然と対応しなければなりません。

4年前の旧埼玉県支部の取り消し問題については、本部の園部浩一郎総務部長から明確な経過説明があり、海老原評議員からも、4年前になくなってしまった埼玉県支部を再建しようと埼玉県内の会員たちが力を合わせて立ち上がり、一丸となつてたいへんな努力をかたむけて現在の埼玉県支部を作りあげてきたものであることを説明し、もはや雑音には耳をかたむけず、今後も日本野鳥の会の仲間

題字『しらこぼと』＝山下静一(財)日本野鳥の会会長、イラスト見出し＝鷹尾正済(p5, 6, 12, 表紙デザインも)・鈴木加代子(p8)・渡辺周司(p10)

としての活動を続けていこうではありませんかと呼びかけて全国の代表者たちからたいへん多くの賛同と激励を得て、埼玉県支部の立場を示すことができました。

会員数は

3月20日現在 865 人です。

活動報告

- 2月13日 普及部会議。役員会議(司会・藤原寛治、各部の報告、環境庁の環境セミナーへの講師派遣、支部代表者会議、6月までの行事予定、その他)一軽井沢塩壺温泉にて。
- 2月13日～14日 軽井沢などで役員リーダー懇親研修会。参加者20名。
- 2月15日 本部の各担当者と環境セミナーなどについて打ち合わせ(海老原)。
- 2月15日 『しらこぼと』3月号の原稿を印刷所へ(山部)。
- 2月24日 校正(大武、西城戸、森本)。
- 2月25日 羽生市立川俣小学校からの野鳥写真パネル貸出し依頼にたいして発送。
- 3月1日 県庁自然保護課の担当者と、64年野鳥保護のつどい関係行事などについて打ち合わせ(海老原)。



暖冬のせいだろう、この冬は思わぬ珍鳥も見ることができた。自宅付近では、メジロが例年になく多い半面、常連のカケスやヤマシギが来なくて少し淋しい思いをした。でも、うちの餌台にはこれまで来たことがなかったメジロ、ツグミ、シロハラがやってきてよるこぼせてくれた。

(森本國夫)

『しらこぼと』 1988年4月号(第47号)

定価 100円(会費に含まれます)

発行人 今井昌彦 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 ☎ 0488(32)4062

〒 336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町107号 郵便振替東京9-121130

印刷 望月印刷株式会社

(本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)